

コロンビア政治情勢（2024年11月）

1 概要

【内政】

- (1) ELN との和平交渉
- (2) セグンダ・マルケタリアとの和平交渉
- (3) 洪水被害地域に対する災害事態宣言
- (4) コロンビア政府、17人の平和管理者を任命
- (5) レイバ前外務大臣に対する10年間の公職追放措置
- (6) 和平特別法廷、FARC による未成年者への強制徴兵及び性暴力を起訴
- (7) 下院弾劾委員会、ペトロ大統領に対する新たな調査を開始
- (8) 新憲法裁判所判事の選出
- (9) 反政府抗議デモ
- (10) 世論調査

【外交】

- (1) ムリージョ外務大臣、ノルウェーを訪問
- (2) ペトロ大統領、米国大統領選挙を受けトランプ次期大統領を祝福
- (3) コロンビア、第一回児童に対する暴力撲滅閣僚会合開催
- (4) ムリージョ外務大臣、アゼルバイジャン COP29 に出席
- (5) ムリージョ外務大臣、フランスを訪問
- (6) ムリージョ外務大臣、ロシアを訪問
- (7) オベソ外務副大臣、エクアドルで行われたイベロアメリカ・サミットに出席
- (8) ペトロ大統領、ブラジルで開催された G20 首脳会合に出席
- (9) タミーム・カタール首長のコロンビア訪問
- (10) 英国、対コロンビア短期査証免除措置を撤回
- (11) 紛争下の性的暴力防止イニシアチブ（PSVI）国際会議の開催

2 本文

【内政】

- (1) ELN との和平交渉

3日から7日、カラカスにおいて政府と ELN の代表団が会合し、現在中断している和平交渉の再開に向けた協議を行った。また、19日から25日にも双方代表団がカラカスで再び会合を行い、一時停戦合意再開の可能性について協議した。

- (2) セグンダ・マルケタリアとの和平交渉

8日、コロンビア政府は、セグンダ・マルケタリアとの第2回和平交渉日程を決めるため同グループと会談を行ったが、日程決定には至らなかった。他方、21日にはセグンダ・マルケタリアの分裂が確認され、「ボリビアノ軍全国コーディネーター」グループが政府との和平交渉を再開すると発表した。

(3) 洪水被害地域に対する災害事態宣言

13日、コロンビア政府は、大雨による洪水被害が広がったチョコ県及びラ・グアヒラ県に対する災害事態宣言を發布した。これを受け、政府は災害復旧に向けた優先的な資源の配分措置を開始すると共に、災害即応部隊を派遣して対応にあたった。

(4) コロンビア政府、17人の平和管理者を任命

12日、コロンビア政府は、和平促進を担う市民としての平和管理者の職に新たに17名の人物を任命した。しかし、その中には準軍事組織であるコロンビア自衛軍連合(AUC)の元指導者サルバトーレ・マンクーツをはじめとした元違法武装組織民兵や未だ収監中の者が含まれていたことから、国内で強い批判が聞かれることとなった。

(5) レイバ前外務大臣に対する10年間の公職追放措置

12日、行政監察院は、レイバ前外務大臣による外務省旅券入札プロセスでの規則違反を認定し、同前大臣に対し10年間の公職追放措置をとった。レイバ前大臣はこの決定を不服としつつ、国益を守るために行動した旨の主張を展開した。

(6) 和平特別法廷、FARCによる未成年者への強制徴兵及び性暴力を起訴

13日、和平特別法廷(JEP)は、FARCによる未成年者への違法な徴兵と性暴力を認定し、初めて同罪による起訴を提起した。なお、JEPは現在までに戦争犯罪及び人道に対する罪で159人を起訴している。

(7) 下院弾劾委員会、ペトロ大統領に対する新たな調査を開始

15日、下院弾劾委員会は、法律で禁じられた外国企業による大統領選挙キャンペーン資金提供疑惑について、新たにペトロ大統領に対する調査開始を決定した。これに対し、ペトロ大統領は右外国企業との関係を否定した。

(8) 新憲法裁判所判事の選出

19日、上院本会議で新憲法裁判所判事選出のための投票が行われ、歴史同盟、U党、自由党の支持を集め政権とも近いミゲル・ポロ氏が当選した。

(9) 反政府抗議デモ

23日、ペトロ政権に反対する野党系の抗議デモがボゴタ市をはじめ全国各地で展開された。市民による推定参加者は、ボゴタ市で約4千人、メデジン市で約1万5千人、カリ市で約2千人であった。

(10) 世論調査

11日に発表された Invamer 社による世論調査によれば、ペトロ大統領の支持率は29%、不支持率は66%であった。また、国がうまくいっていると考える国民はわずか29.3%、悪くなっていると考える国民は67.1%であった。

【外交】

(1) ムリージョ外務大臣、ノルウェーを訪問

4日、ノルウェーを公式訪問したムリージョ外務大臣は、アイデ外務大臣と二国間会談を行いコロンビア和平等について協議した。また、オスロにおいて2016年和平合意8周年記念式典が行われ、同合意進捗状況等に関する意見交換が行われた。

(2) ペトロ大統領、米国大統領選挙を受けトランプ次期大統領を祝福

6日、ペトロ大統領は自身の X アカウントを通じ、米国大統領選挙に勝利したトランプ次期大統領に祝意を伝えた。また、月末に再びトランプ次期大統領に対しメッセージを送り、ガザやウクライナでの紛争を終結させるという公約を称賛しつつ、多国間アプローチを通じ麻薬及び移民問題に取り組むよう促した。

(3) コロンビア、第一回児童に対する暴力撲滅閣僚会合開催

7日及び8日、ボゴタにおいて第一回児童に対する暴力撲滅閣僚会合が開催され、119カ国の代表及び千名以上の NGO 関係者が同会合に参加した。ペトロ大統領は、コロンビアにおける児童に対する暴力との闘いについて言及した上で、未来を危険にさらす気候変動に対する不作為や、人工知能の使用を含む新しい戦争技術の開発といった他の形態の暴力について警鐘を鳴らした。

(4) ムリージョ外務大臣、アゼルバイジャン COP29 に出席

11日及び12日、ムリージョ外務大臣は、アゼルバイジャンのバクーで開催された第29回国連気候変動枠組条約締約国会議 (COP29) に出席した。ムリージョ大臣は、チョコ県やラ・グアヒラ県が直面する洪水災害に対する国際支援を要請すると共に、気候変動に対するコロンビア政府の取組について説明を行った。

(5) ムリージョ外務大臣、フランスを訪問

12日、ムリージョ外務大臣はフランスを訪問し、ジャン＝ノエル・バロ外務大臣と外相

会談を行った。同会談では、コロンビア和平や麻薬、組織犯罪、人身売買等への取組について協議が行われた。

(6) ムリージョ外務大臣、ロシアを訪問

14日、ムリージョ外務大臣は、ロシアを訪問し、ラブロフ外務大臣と外相会談を行った。同会談では、コロンビア側からウクライナ戦争への仲介意思について伝えた他、気候危機問題や2025年の両国外交関係90周年記念式典の準備等について協議が行われた。

(7) オベソ外務副大臣、エクアドルで行われたイベロアメリカ・サミットに出席

15日、オベソ外務副大臣は、エクアドルで開催されたイベロアメリカ・サミットにコロンビア代表として参加した。同会合において、オベソ副大臣は、開発計画の中で黒人や先住民のために機会均等を確保することの重要性を主張すると共に、生態系の保護やエネルギー移行等について強調した。

(8) ペトロ大統領、ブラジルで開催された G20 首脳会合に出席

18日及び19日、ペトロ大統領は、ブラジルで開催された G20 首脳会合にゲスト国として参加した。ペトロ大統領は会合において、コロンビアの貧困対策や食料安全保障、人権擁護の取組について説明すると共に、「飢餓と貧困に対するグローバル・アライアンス」への参加を表明した。また、18日には、ペトロ大統領がスターマー英首相と二国間会談を行い、英国による対コロンビア短期査証免除措置等について協議した。

(9) タミーム・カタール首長のコロンビア訪問

20日、タミーム・カタール首長がコロンビアを訪問し、ペトロ大統領と二国間会談を行った。両国政府は、包括的経済連携協定 (CEPA) 交渉について合意した他、経済・商業、観光・ビジネス、港湾、スポーツ・青少年、情報交換の5分野における協力覚書に署名した。

(10) 英国、対コロンビア短期査証免除措置を撤回

25日、英国政府は、コロンビア人による虚偽の亡命申請増加を受け、2022年10月から適用されていた対コロンビア短期査証免除措置を撤回する決定を行った。これに対し、ペトロ大統領は、英国国民に対する短期査証免除措置の撤回を示唆した。

(11) 紛争下の性的暴力防止イニシアチブ (PSVI) 国際会議の開催

25日及び26日、ボゴタにおいて紛争下の性的暴力防止イニシアチブ (PSVI) 国際会議が開催された。同会合において、ムリージョ外務大臣は、コロンビアにおける取組を紹介すると共に、国際社会に対し紛争下の性的暴力防止に向けた対策の強化を訴えた。なお、同会合にオスマニ・コソボ大統領が出席して同国の PSVI に向けた取組を紹介した他、26日

にはペトロ大統領と二国間会談を行った。

(了)